

提案主題	学校組織力の向上に向けた人材育成について
サブテーマ	～ミドルリーダーを育成するために教頭としてどう関わるか～
協議の柱	学校全体の組織力向上をさらに推進していくために、教頭としてミドルリーダーにどう働きかけるか

提言者 宇佐市立北馬城小学校 木村 永生

1 質 疑

- (1) Q H26年度、H27年度の教務主任は同じ人か。
A 同じ人である。前の年から全体を見ることの必要性を声かけしていた。
- (2) Q H27年度の校長のミッションは、学力向上の授業改善だったのか。
A 重点の一つである。学力向上が、最重要項目。他は、生活の振り返りと体力向上。
- (3) Q 授業改善会議の内容を具体的に教えてほしい。
A 進め方は、教務と研究主任に任せ、板書をどう組織したか授業を見直した。
- (4) Q 教務主任の他の担当は何か。週の授業数はどれくらいか。
A 図書。司書と連携しブックトークなど。授業は、5、6年理科と書写全学年。2年算数。

2 協 議

- (1) 教務主任にどこまで任せて教頭が何をするか住み分けが難しい。学校規模や事情によっても分担部分が異なってくるが、教務は子どもと勝負できる実働できる場がある。ミドルリーダーへの働きかけやチェック機能を任せる。教頭は、話し合いの時間を確保するなどの環境整備や学年や年齢の壁を一本化する方向性を出していくのが役割。
- (2) 誰に教務を任せるのか。人選も大事になってくる。教務のモチベーションを高める。今いる人が最大限に活躍できる環境づくりや人間関係作りも大事ではないか。次世代へ引き継ぐことを見通して日頃のコミュニケーションが大事にし、主任に適する人材、職員への学校経営の参画意識、モチベーションを高めていくことが教頭の役割。
- (3) 教務主任の立ち位置をどのようにするか。教務主任としての枠割り、組織マネジメントを教頭として示していく。
- (4) 校長、教頭、教務の意思統一が大事。話し合いの時間で教務主任を育てていく。

3 指導助言

- (1) 組織の重要性を職員に説いて新学期をスタート。悩みや課題が言えて子どもの成長が見える職員が元気な職場は組織が機能する。組織力の重要性を伝えていく。
- (2) 教務主任を核にして組織づくりをする。教務主任を要にして教頭は裏方的にサポートしていく学校運営組織づくりをする。ミドルリーダーや若手を育成していく役割を教務に任せていく。
- (3) 教頭の役割が曖昧になる点ほどの部分を受け持つのか教務と話し合いながら、学校が組織として活性化していくようコミュニケーションを大事にして血の通った学校独自の組織づくりが必要である。